北海道日伊協会会報

VOL. 59　2018年5月
発行　北海道日伊協会
事務局　〒060-0051 札幌市中央区
南１東２　ブライトサッポロ内
電話(011)241-0345 FAX (011)241-0567

憧れの Gran Premio Nuvolari 参戦

マリアンナさん　サローネで講演

「北海道にいたからこんなチャンス」

北海道日伊協会は、今年第 1 回の Salone d'Italia マリアンナ・チェスパさん（会員、大学講師）の「Gran Premio Nuvolari との出会い」を新年会を兼ねて２月２日法人会員・札幌丸井三越の丸井大通館「ミチノイエ」で開きました。昨年秋、イタリアで長い歴史を持つミュージアム・クラシックカーラリーGran Premio Nuvolari に出場したマリアンナさんは、「このラリーに出ることは子供の時からの夢。北海道にいたことでこんなチャンスが巡ってきた。運命としか思えないと語り、憧れのラリー体験を興奮気味に語りました。

このラリーは、昨年９月 15 日から３日間、北部・中部イタリアで開かれ、世界中からクラシックカー315台が参加。マリアンナさんは、群馬県のドライバーのナビゲーターとして出場、1964 年式の白いポルシェでマントヴァ、モデナ、シエナ、ウルビーノなど歴史的な街を含むルートを走ってきました。

マリアンナさんは、その出会いは北海道日伊協会で2014年夏に、北海道で Trofeo Tazio Nuvolari が開かれると連絡を受けたことだったと回想。列車に乗って一人、出発・ゴールの南千歳まで見に行って感激し、翌年からレースに参加しました。

なぜそんなファンになったかいうと、レーサーだった父の影響。小さいとき、人形でなくミニカーのフェラーリで遊び、今でも実家に50台ほど大事にとってあるそうです。

スタートのマントヴァには、様々なクラックカーが集まり天国のよう。スタートが273番で遅く、ルート設定が時間ぎりぎりで厳しく、北海道のレースのように寄り道してドルチェを食べる余裕どころか、御馳走がたくさんある食事の時間もきつかったそう。

費用についての質問には、レース中のホテル、食事代など一切込みで2人約50万円とのことでした。

㊤講演するマリアンナさん㊦名車が揃ってマントヴァに集結

マリアンナさんは、「夢が実現した素晴らしい体験だった。また機会を見つけて参加したい」と興奮がよみがえった表情で講演を終えました。

和やかに新年懇親会

新年懇親会は２月２日、マリアンナさんのサローネの後、会場を隣りのホールに移して行われ、ワインと食事で話が弾みました。

三部会長は挨拶で10月に「アイーダ」でこけら落としする札幌市文化芸術劇場への期待を語りました。

今年のクラシックカーラリー　雄大な積丹―ニセコ―洞爺―支笏コース

“17th.+1 Trofeo Tazio Nuvolari con Suche / Hokkaido Stage”は7月14日から16日迄の3日間道央を舞台に繰り広げられる。14日12時前後、キリンビール北海道千歳工場の駐車場をスタートし、16日の14時～15時頃スタートと同じ会場にゴールする。今年のルート（交通状況や天候等により変更となる場合がある）は、

１日目　千歳市～江別市～当別町～石狩～札幌市内～定山渓～小樽

２日目　小樽市～余市町～積丹半島～岩内町～寿都～黒松内～ニセコ町～真狩村～ルスツ

３日目　ルスツ～洞爺湖～登別～支笏湖～苫小牧市～千歳市

参加車両は全国から戦前車両、1940年代、1950年代を中心に約30台。アルファ・ロメオ、1920～30年代のフィアット、トライアンフ、ジャガー、MG、スタンゲリーニ、シトロエン、ポルシェ、等々多種多彩。北海道に初上陸する車種の参加も予定している。

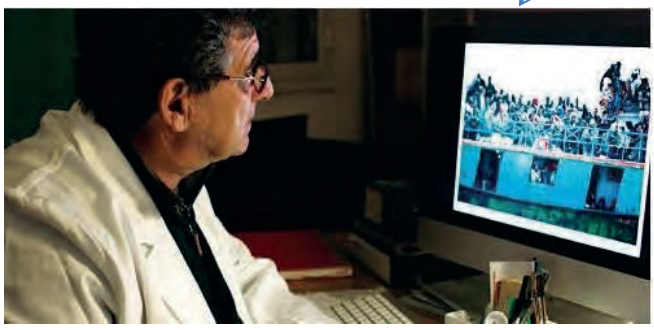
マリアンナさん出会いの１枚―2014年は控えめに最後列に

主催の「Scuderia Tazio Nuvolari Asia」を代表して若槻康介さん（函館）は「北海道の大自然を、何十年も昔の車でゆっくりとドライブし、その土地の味覚も味わうのはこの上ない楽しみ。参加者同士の親睦は勿論ですが地元の皆様との交流を図り、交通安全を啓蒙する事も目的の一つ」と話している。

お問合せ　Scuderia Tazio Nuvolari Asia　Eメール：nivola.tazio1892@ncv.jp

ミチコの映画館

『海は燃えている イタリア最南端の小さな島』



2016 年　イタリア=フランス　114 分
監督・撮影／ジャンフランコ・ロージ
第 66 回ベルリン国際映画祭　金熊賞

イタリア最南端、美しい海に囲まれた人口わずか 5500 人の小さな島ランペドゥーサ島はシチリアよりもチュニジアに近い。

12 歳のサムエレは友達と手作りのパチンコで遊び、祖母の昔話に聞き入り、おじさんの漁について行ったりして毎日を過ごす、まだあどけなさが残る少年である。音楽を流しニュースを伝えるラジオ DJ のピッポ、それを聞きながら家事をする老婦人、素潜りでウニを採る男性、島民は日々平穏に暮らす。

だが、この島には別の側面があった。年間 5 万人を超えるアフリカ・中東からの難民・移民が目指すヨーロッパへの玄関口なのだ。彼らを乗せた船の遭難事故は沖合で頻発し、イタリア沿岸警備隊が救出する。劣悪な環境下、水や食料も尽きた状態でやってくる難民は海上で息絶える者も多い。救助された彼らは島の収容センターに移送後すぐにイタリア本土に送られるため、島民との交流はない。唯一両者と接点があるのは、島民を診察し、上陸した難民の検診と検死にも立ち会うバルトロ医師だけだ。

本作は島民の日常と、過酷な状況から救済された難民の様子を交互に描いたドキュメンタリーである。ジャンフランコ・ロージ監督は一年半ランペドゥーサ島に住み、最初の数ヵ月はカメラを回さず人々と交流したという。そして救助艇には 40 日間乗船し行動を共にした。

登場人物たちと長期間時間を共有しコミュニケーションを取り信頼関係を築くことによって、人々はそこにカメラが介在していないかのように自然体で、ありのままの日常を映し出すことに成功している。そしてナレーションもなくドキュメンタリーは進行するが、観ていくにつれて人々の背景にあるもの、夫々が持つストーリーが伝わってくる。

監督は『フィクション』と『ノンフィクション』の中間に自身の作品を位置付け、ルポルタージュの技法ではなく、詩的表現で観客の感情に訴えかけることを重視しているという。本作でも、今起こっている悲劇を過度な衝撃的シーンで強調するのではなく、静かに物語を紡ぐような組み立てと詩的な映像で観る者に問題提起する。

バルトロ医師が 25 年間にわたって難民を診てきて、救えなかった時の大きな失望感を語るシーンがある。「怒りがこみ上げ腹に穴があいた感じで何度も何度も悪夢となって蘇る。難民を救うのは全ての人間の務めだ」という医師の言葉は心に重く響く。

本作は 2016 年ベルリン国際映画祭 金熊賞（グランプリ）を受賞し、それにより、この地中海の問題に注目が集まった。難民と接点のない島民の日常は私たちの日常と重なり、遠い島で起きていることではなく自分たちの問題として考えるべきであることを示している。

島民と難民―島が持つ二つの顔

原題は「Fuocoammare（火の海）」。第二次世界大戦中、イタリアの軍艦が深夜の港で連合軍に爆撃され、海が真っ赤に燃え上がり、漁師は夜海に出ることを恐れた惨事を歌った曲のタイトルを使ったという。

金川道子（かながわ みちこ）
北海道日伊協会理事
グラフィックデザイナー。

LA NOTIZIA　北海道日伊協会事務局便り

6月16日(土)に Salone d' Italia　会場　事務局2F　伊語教室

北海道日伊協会会員の寺鍛冶博史さんが語ります

ヨーロッパ企業の文化
－12年のオリベッティ体験から－

午後3時から
終了後、懇親会

寺鍛冶さんは近畿大学理工学部卒後、1971 年日本オリベッティ入社、世界初のオンライン金融端末機の納入プロジェクト担当、78 年イタリア本社で日本語プリンタ開発を手掛けた。多くの外資会社にも勤務。

レストラン Natsuki　再びオープン

しばらくお休みしていた当協会会員のゴスペルシンガーNatsuki さんの「食事とお喋り&ライブ―レストラン Natsuki」が1月から再開され、第3回は5月21日(月)に開かれます。会場はビヤホールライオン狸小路エビスホール(札幌市中央区南2西2)で18時30分開演。ピアニストは南山雅樹さん。Natsuki さんは「お客様と歌とトークの交わりが出来て幸せ。一緒に懐かしの歌を歌う“歌声喫茶”のような暖かい場所にしたい」と話しています。

1月の再開初日は待ち兼ねたファンで満員でした(**写真**)。

料金:4,000 円(お食事+飲み放題+ライブチャージ)

予約は info@natsuki-vocal.jp まで。

■ 各地から会報届く

石川県日伊協会会報 19 号㊤
食文化を通じてさらなる交流を―と呼びかけ、世界ジェラード大使・柴野大造さんを招いた講演会とワークショップの模様を詳しく紹介。

名古屋日伊協会会報 2018 年第 2 号　新年顔合わせ会、北イタリア旅行報告のほか、河辺康博・愛知淑徳大教授のローマ建築探訪、オペラ研究家・都築義高氏のオペラ小史、斎藤和佳子さんの「イタリアの心」など、連載ものが充実。＊事務局でご覧ください。

編集後記　3月16日(金)に開いたSaloneCINEMA『ローマに消えた男』は10回目。1昨年のこの会で鑑賞した『父　パードレ・パドローネ』を脚本・監督したタヴィアーニ兄弟の兄ヴィットリオさんが4月15日亡くなった。88歳。印象的な作品で、他の作品も見たいもの。ご冥福を祈ります▼イタリア総選挙は3月4日の行われ、ポピュリズム政党「五つ星運動」がぶっちぎりで第1党に躍進し、レンツィ前党首率いる中道左派の与党・民主党や公職立候補資格停止中のベルルスコーニ氏率いる中道右派のフォルツァ・イタリアなど既成政党は後退した。過半数を握る勢力はなく、連立政権の協議は移民問題や EU への姿勢を巡って難航しており、再選挙の可能性も▼がっちり抱き合った南北朝鮮首脳。板門店宣言は「朝鮮半島の非核化の実現、年内終戦目指す」とうたった。テレビ画像から、65年も続いている戦争状態を我々が終わらせる、という強い意志が伝わってきて、身を正して見入った(金子)